

活動報告 わたしの住みたい街づくり

まちづくりへの思い

私たち医療生協の「おたがいさま」活動

松浦 真由美 氏 東 香代子 氏



こんにちは、鹿児島医療生協の組合員理事をしている松浦と申します。私たち医療生協の「おたがいさま」活動について報告いたします。よろしくをお願いします。

医療生協は組合員と医療や介護の専門家が一緒に問題の解決を目指すために事業と運動をすすめる生協です。

鹿児島医療生協は 1974 年に設立されました。650 名の組合員と一つの診療所からのスタートでした。現在、約 13 万 6,000 名の組合員となっています。事業所は 25 カ所あります。

私たち医療生協の理念は「健康をつくる。平和をつくる。いのち輝く社会をつくる」です。そして、私たちの大切にしている健康観とは「昨日よりも今日が、さらに明日がより一層意欲的に生きられる。そうしたことを可能にするため自分を変え、社会に働きかける。みんなが協力し合って楽しく明るく積極的に生きる」というものです。

鹿児島医療生協は、薩摩半島を中心に、枕崎市から霧島市まで 39 の支部があります。

私たち組合員の活動を一部紹介します。年間 61,000 件を目標に、血圧測定、尿チェック、骨密度測定などの健康チェックを進めています。

健康づくりの取り組みです。多世代に地域まるごと健康づくりの取り組みを進めています。保健学校を開催し、修了者は地域での健康チェック等に協力をお願いしています。鹿児島医療生協のエンディングノート（最期のときをどのように迎えたいか書き記す）や健康体操の普及等も進めています。

まちづくりの取り組みです。安心して暮らせるための取り組みを進めています。社会保障学校では社会保障制度の学習や施設見学を行っています。戦争と平和の尊さを多世代に伝える取り組みも行っています。

医療生協の班会の様子です。組合員さんは班をつくり、体を動かしたり、学んだり、多種多様な内容の班会を行っています。このように、健康づくり、まちづくりの活動に参加し、多世代の方が医療生協の健康観を実践しています。

今、私たちが取り組んでいる「わたしと地域の困った」の解決を目指す「おたがいさま」活動を紹介します。

医療生協では、三つの視点で地域包括ケアに取り組んでいます。一つ、地域まるごと健康づくり、二つ、憲法 25 条「生存権」、13 条「幸福追求権」の活きる社会、三つ、健康づくり、生きがいがづくり、助け合い、きずなづくりの三つです。

地域包括ケアの課題は、地域で暮らすために心身の必要な状況に合わせ「医療」「介護」「介護予

防」「生活支援」「住まい」を切れ目なく総合的に提供する、日常生活圏域ごとに暮らしやすいまちづくりに必要なサービスを提供できるよう生活支援、介護予防総合事業を検討する、などです。

特に私たち組合員は三つのつくりょうチャレンジとして、一つ、「つながりマップ」で「地域のつながりが見える化」に取り組むこと、二つ、居場所づくりで安心づくり、三つ、支部づくりで健康で安心して暮らし続けられるまちづくりに取り組んでいます。三つのつくりょうチャレンジは「おたがいさま」を合い言葉に誰もが住みやすい地域づくりを目指しています。

2015年からつながりマップの作成も進めています。マップから見えてきたものもありますが、まだまだ地域とのつながり、資源の活用という点が弱いと思います。マップは一度つくって終わりではないので、これからもいろいろなマップづくりを広げ、つながっていければと思います。

居場所づくりの状況です。現在、15カ所で定期的に開催されています。ある団地の居場所では独居になるとなかなかカレーを食べる機会がないので、カレーサロンとして開催し、団地内の独居の方の参加があります。また、あるたまり場で足腰が弱ってごみ出しに困っているとの声を聞いて、ごみ出しのお手伝いを始めたところもあります。地域みんなの食堂には職員や運営委員などボランティアの協力が広がっています。

これらの取り組みを進める中で、身近にある「困った」を解決できる仕組み（暮らしの助け合いや支え合いの活動）が必要ということで、組合員や患者さん、患者家族、地域の方々の医療・福祉・生活を支援するための仕組みとして「困ったときはおたがいさま」の「おたがいさま」活動を始めました。

「わたしと地域の困った」を拾い上げ、解決を目指す取り組みと課題について紹介します。1、おたがいさまシートの活用、2、くらしのサポーターの育成、3、地域と事業所、事業所と事業所

をつなげる相談窓口、コーディネートを行う担当者の配置、4、相談窓口の設置や相談機能を持った居場所づくり、5、組合員と事業所の情報共有・関係づくり、6、他団体とのネットワークづくり・広報活動、7、方針の共有、推進体制の確立などです。

2017年9月にくらしコーディネーターとして相談の専門家を配置し、事業所や地域からの困ったことを拾い上げる「おたがいさまシート」の運用を開始しました。「困ったこと」を本人、家族の了解を得て、記入し、「くらしコーディネーター」に送付します。「くらしコーディネーター」はさまざまなネットワークを駆使して、問題解決に当たります。これまで16枚のシート提出がありました。

くらしのサポーターは「困った」を拾い上げ、みずから支援するとともに「おたがいさまシート」につなげる役割です。1月4日現在、140名が登録しています。現在もサポーター養成講座を行い、登録を進めています。おたがいさまの気持ちで「困った」の解決を目指します。

「おたがいさまシート」からの相談事例を紹介します。

50代の身寄りがない独居男性、要介護5の方です。長期入院の退院に当たり、家で暮らせる状態にすることや金銭管理について、相談がありました。たくさんのご協力をいただき、入院のストレスから解放され、退院翌日、安心した様子で好きなコーヒーとパンの食事をし、喜んでいたそうです。独居生活が維持できています。

70代独居女性。物忘れが多く、不安でどこにも出かけられず、閉じこもり状態の方の相談がありました。訪問し、話を聞くことで不安が少し解消し、もともと、世話好きな方なのでデイサービスのボランティアを紹介し、居場所ができて、フレイル予防につながりました。仕事で忙しい息子さん夫婦も、母親が地域でのつながりができ安心したようです。

70代の独居女性。12月30日に退院が決まりましたが、自宅には布団や暖房器具がなく、何とか療養環境を整えてあげたいと訪問看護師から相談がありました。緊急で、組合員さんや事業所に呼びかけ、こたつやホットカーペット、布団や衣類が集まりました。励ましのお手紙もありました。年末年始を暖かく、自宅で過ごすことができました。

地域の組合員さんからも相談シートが寄せられました。退院した後の90代の両親の生活が不安との相談がありました。他団体との連携により生活支援のサービスを受けられることを知り、暮らしの不安がなくなりました。

「おたがいさま」活動について、組合員、職員から寄せられた意見です。「困り事への視点を持つことで地域を知る機会になります。」「組合員や民生委員、地域住民と連携して問題解決できる仕組みを待っていました。」など期待の大きさを感

じます。

「家で暮らす」を支援するために「家族問題」「認知症」「生活困窮」「社会的孤立」など複雑な「困った」を抱える人たちをどう支えるか。地域で暮らし続けるためにはさまざまな困難があります。医療、介護事業所が組合員や地域の力と連携して、困った人に向き合い、包括的な支援を提供していくことが安心して暮らせるまちづくりにつながります。

今後の課題と取り組みです。「おたがいさま」活動はフレイル予防と安心して暮らせるまちづくりにつながることであり、主体的に楽しく活動に取り組めるように進めていきます。組合員、地域の方々が「困った」ことを何でも相談できる頼れる医療生協を目指して取り組みを進めます。

以上で私たち医療生協の「おたがいさま」活動の報告を終わります。

ありがとうございました。